

活動功労賞

日本色彩学会活動功労賞 受賞のご挨拶

Greeting of receiving the CSAJ Activity Contribution Award

坂本 隆

Takashi Sakamoto

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology



この度は、日本色彩学会活動功労賞という栄えある賞を賜り、大変光栄に存じます。日頃よりお世話になっております論文誌編集委員会の先生方をはじめ、理事会の先生方、各種委員会の先生方、研究会主査と幹事の先生方、編集事務局の辻塾様、学会事務局の八木橋様を始め、お世話になっております皆様方に対し、心より感謝申し上げます。

本受賞の選考過程において、『会誌改革ワーキンググループ主査として会誌の電子化を主導したこと』、『学会誌「色彩学」と論文誌「日本色彩学会論文誌」の発行に尽力したこと』ならびに『学会の予算削減に大きく貢献したこと』等をご評価して頂いたと伺っております。過分な評価を賜りましたこと、至極恐縮しております。しかし、今なお会誌改革に関しましては、やるべきことが山積しており、論文誌担当理事（論文誌編集委員会の委員長）としての職責もまだ2年ほど残っておりますため、道半ばでの受賞に対し、些かもどかしい気持ちであります。

さて折角の機会ですので、この場を借りまして、電子化に関するこれまでの経緯を、ごく簡単にまとめさせていただきます。冊子体で発行されていた学会誌の電子化を進めようという構想は、実は2015年1月頃から練られておりました。そして電子化を円滑に推進するため、当時の学会長でいらした淵田隆義先生の命により、理事会に会誌改革ワーキンググループ（主査：坂本隆）が設置されました。翌年2016年4月には、科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルプラットフォーム「J-STAGE」を利用して、日本色彩学会誌掲載の論文と大会予稿（その当時はSupplementと呼ばれる別冊に掲載されていました）の電子媒体版（PDF）が公開されました。冊子体の学会誌はまだ残っていましたが、冊子体と電子媒体の二本立てで会誌を公開する体制は、このときに実現された訳です。その後、2022年に学会誌が

完全電子化され、「色彩学」としてリニューアルされました。また翌2023年には日本色彩学会論文誌「Color Science Research」も創刊され、皆様の目に触れる会誌の「見える部分」については、電子化の作業が完了しました。ここに至るまでに足掛け8年ほどの歳月を要したことになります。またこのタイミングで、学会誌別冊（Supplement）として発行されていた大会予稿集も、大会Webページから公開される電子媒体版（PDF）のみとする体制へ移行しました。

冒頭部分において、会誌改革は道半ばと書かせて頂きましたが、電子化が完了している会誌の「見える部分」だけでなく、会誌の「見えない部分」として、例えば論文投稿から採録に至るまでの投稿者と事務局間のやり取り、編集工程の管理、査読や審査などの各種作業依頼、原稿フォーマットや査読報告書の管理と更新などが、まだ人手を要する極めてアナログな状態で残っております。ここをDX化する必要性は、論文誌編集委員長として日々痛感しているところではありますが、課題である会誌の「見えない部分」を刷新するためには、あと数年かかると予想しています。しかし今このDX化を進めなければ、学会の財務体質はいつまで経ってもスリム化されず、なおかつ時間と労力を注ぎ込まないと思い通りに進まない「手間がかかる」編集体制から脱却できないと考えております。

栄えある賞を賜りましたにもかかわらず、上記の通り、未だ解決すべき課題が山積しております。今回の受賞を励みに、会誌のDX化を「見えない部分」に至るまで完遂したいと思っております。関係者の皆様にはまだまだご迷惑をお掛けするかと存じますが、ご指導ご鞭撻を賜ることができましたら幸甚に存じます。本受賞に対し、少しでも報いることができまよう、精一杯頑張らせて頂きます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。